

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	理工系日本語教師になるには
Title(English)	Japanese Language Teachers at Scientific and Technical fields
著者(和文)	仁科喜久子
Authors(English)	KIKUKO NISHINA
出典(和文)	日本語なんでも相談(アルク), Vol. , No. , pp. 265-269
Citation(English)	Consultations for Japanese Language Teaching, Vol. , No. , pp. 265-269
発行日 / Pub. date	1990,

いまから日本語教師を夢見てその勉強方法に悩んでいらつしやるあなたのような方なら、どの大学でも歓迎することでしょう。私の大学の日本語学科の学生にも、あなたと同じような迷いをもったまま入学してきたものが何人もいます。いまは大学院に進んだそれらの学生にあなたの迷いを話しますと、開口一番こう言いました。「むりもないわ……。でも、はやくから日本語の勉強をしながら、どうして日本語教師になれるのかしら。」実はこれは、入学前の考えとすっかり変わって、日本語の勉強のたいへんさを思い知らされた告白なのです。若いあなたにきついことを申し上げたかもしれませんが、参考にしていただければ幸いです。

【理系の知識を活かして大学で教えたい】

私は今、大学院で理系の勉強をしているのですが、卒業後、理系の知識を活かして大学で日本語を教えたいと思っています。どのような勉強が必要でどのようなにして就職口を探せばよいか、などアドバイスいただければ幸いです。

まずは日本語教授法の訓練

—— 仁科喜久子

大学院での勉強を活かして、大学で日本語を教えるポストを得るためにはどうすればよいかということですが、次の二つの場合に分けて考えた方がよいでしょう。

■ 非常勤講師として日本語を教える場合

非常勤講師として日本語を教える場合は、各機関によって採用の条件などは

多少違うと思いますが。普通修士課程修了以上の学歴が要求され、修了後数年を経ていることを条件にしているところもあります。機関によっては、研究業績を問題にすることもあり、修士論文以外の発表論文がいくつかあることが条件になります。一方、実践面では、多くの場合即戦力が求められると思いますから、日本語教授法の訓練を受けた方で、さらにある程度の教育経験のある方が有利でしょう。経験のない場合どのようにして、仕事を始めるのかということになりますが、これは養成機関で指導を受けた先生方から推薦されてはじめての職を得る場合が多いようです。この場合もはじめは大学以外の機関であることもあり、ある程度経験を積みながら機会を待つということもあります。

■専任教員のポストを得る場合

専任の教員ということでは次の二条件を満たすことを考えなければならぬでしょう。

- (ア) 大学でポストを得るための必要条件
- (イ) 日本語を教えるための条件

(ア) については、正規の大学教員になるには研究者と教育者の両面の資質が問われます。最近では国公立の各大学で日本語教育のポストが増え、教授、助教授、講師などを公募することがありますが、そこでは研究業績と教育実績と

人柄が審査されます。研究業績のほうは研究者としての水準や将来の可能性を見ます。発表論文の質と量が研究業績の内容をはかる重要な要素になります。教育面では学生をどう導いて行くか、教育者としての資質や常識があるかなど指導力や人柄が大切になってきます。また大学という教育研究組織の一員としての協調性なども要求されます。実際に大学での職務は、教室で教える時間、他の日本語教育機関より少なくその後の時間を研究活動のために割くようになっています。それは大学が持つ社会的な責務でもあります。大学で日本語教育に携わる者は、他の機関以上に新しい教材の開発などの研究に興味がないといけないでしょう。

(イ) については、大学で日本語を教えるための資格というのは原則的にはないといえます。そして、特別の日本語教育のための訓練を受けずに教えることは可能です。各大学機関での運営方針でそのような教員が日本語教育を担当することもあります。ただし、日本語教育の訓練や経験がなく教育に当たるとしたら、教師も学生も大変でしょう。大学での日本語教育といってもいろいろな種類があります。一般に学部生の場合は特別な場合を除いて入学前に日本語能力試験一級を受験し、その成績が一定の水準に達していなければ入学が許可されません。したがって、学部留学生の日本語能力は高いといえます。一

方、大学院レベルでの研究留学生などの場合はそのような基準はなく、原則として日本語学習経験が皆無の学生でも在学が許可されます。

前者の学部学生対象の日本語教育なら、日本語教育の訓練のない教師でもある程度の対応ができるでしょう。しかし、後者の学生を教えるにはかなりの技術がいることになります。日本語教育では初級ほど教授法の知識と技術そして経験が必要となります。そのような場合に臨むためにも、日本語教員養成機関などで訓練を受けるのがいいと思います（このことは非常勤講師の場合も同様です）。

この養成機関については『日本語教師読本』に掲載されている「全国日本語教師養成講座一覧」が参考になります。これをご覧になるとわかりますが、期間や方法も様々で、現在では全国にたくさん点在していますから、それぞれの事情に合わせて選ぶことができます。質問者のように大学院在学中の若い方の場合は、本格的な訓練を受ける機会があると思います。例えば、国立国語研究所の日本語教員研修員に応募してみるのもいいでしょう。これは修了までに二年かかりますが、もし環境が許すのなら、長い将来の基礎作りにはいいと思います。

質問者のように他の専門知識を活かして日本語教育を行いたいという場合は

先に述べた日本語学習歴の低い学生を対象とする可能性が高いでしょう。最近の日本語学習者の学習動機は有利な経済活動や科学技術の摂取に深く関わりがあると思われます。それにともない、できるだけ短時間で必要最小限のことを効率よく学びたいという要望がますます大きくなっているようです。現に、科学技術日本語を教える教員養成をどうするかということがいま議論され始めたところです。そのような学習者を対象にする場合は、新しい教授法と教材開発に取り組む必要があります。そして、今そのような研究と教育のできる人材を必要としていることは確かです。